

【舞鶴市】

1人1台端末の利活用に係る計画

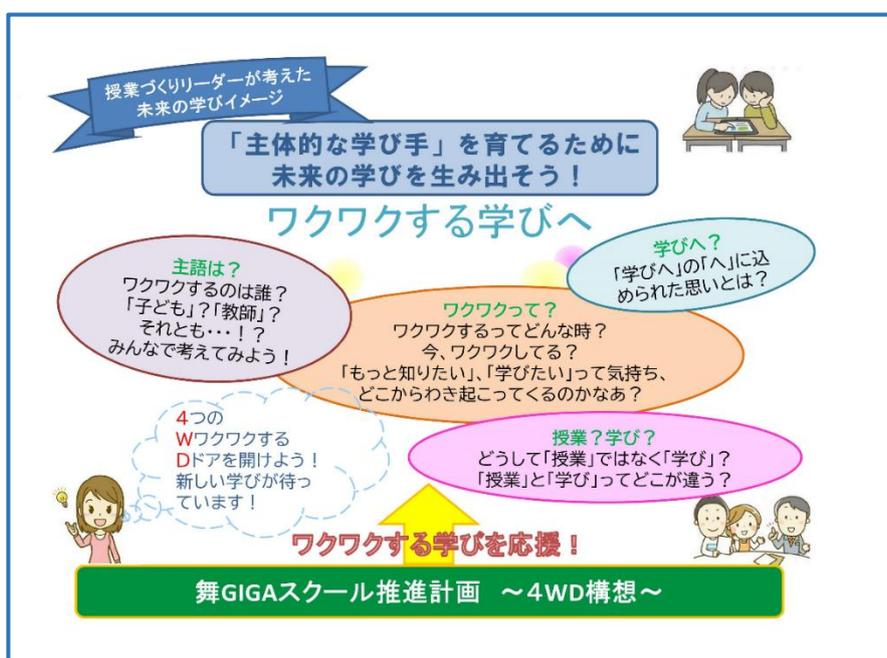
第1 1人1台端末を始めとする ICT 利活用によって実現をめざす学びの姿

舞鶴市では、令和5年度に「第3次舞鶴市教育振興大綱」を策定し、基本方針の一つとして「生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進」を掲げています。その中の目標である「個性を伸ばし夢をかなえるために必要となる力の育成」に向けて、ICTを効果的に活用し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んでいます。それにより、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等、生涯にわたり学習の基盤となる資質・能力の育成を図っています。

ICT 利活用に係る具体的な取り組みとして、主体的な学び手の育成に向けた未来の学びを生み出すことを目標に、「ワクワクする学びへ」というスローガンを掲げ、「学び手」のICTの利活用能力・資質の向上に力を入れています。(資料1)

ここでいう「学び手」が、「子ども」を指すのか、もしくは「教員」、あるいはまた別の誰かと捉えるのかを各々で模索し、「誰がどんなときにワクワクするのか」という観点から、立場や既存の枠組みに縛られることなく、児童生徒のみならず教員も、自ら学び考え、お互いに向上し合い、新たな価値をつくり出す力を育める質の高い教育環境の実現を目指します。

(資料1)



第2 GIGA 第一期の総括

1. 経緯と現状

舞鶴市では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度に小・中学校の児童生徒に1人1台端末(タブレット)を整備し、令和3年度4月から運用を開始しました。この5年間で学習用端末を接続するためのICT環境の整備を進めるとともに、教育現場での活用を推進してきました。

2. ICT 施策の実施内容

(1)教職員のICT利活用能力向上

教職員のICT利活用能力やリテラシーの向上を目標とした取り組みを、ICT利活用促進指導員のアドバイスの下、令和3年度から継続して実施しています。具体的な取り組みとしては、例えば、各学校から毎年度ひとりずつ「授業づくりリーダー」を選出し、ワクワクする学びに挑戦する教員を育成することや、舞鶴市内の特定の学校を研究校として指定し、定期的なアドバイザーの訪問や研究発表を行い、学校単位での先進的なICTによる学びの実現に挑戦することなどを実施しています。

(2)ネットワーク環境の整備

学校ネットワークは集約接続方式を採用し、法人専用回線にて、各校と集約拠点間を1Gbpsベストエフォート、集約拠点からインターネットへの回線を10Gbpsベストエフォートとし、GIGA第一期時点においてはネットワークサービスを十分に活用できる環境を整備しました。

(3)多様な学びができる学習ツールの活用

1人1台端末について、MDMによるセキュリティ確保や保守・運用面の整備を行うことで、家庭への持ち帰りを全校的に実施しています。そのことや学校内でのネットワーク環境の整備によって、教室で授業が受けられない児童生徒に対してオンライン授業の対応ができるようになりました。

授業においても、集団での共同学習をサポートする授業支援アプリやオフィスツールを中心としたクラウドサービスを導入することで、オンライン学習や様々なデジタルコンテンツの教材提供など、GIGAスクール構想以前では実現できなかった学習環境が整いました。これにより、学習コンテンツや学習進度をより細やかに把握し、空間・時間に捉われない学びの推進に繋がりました。

3. 課題

(1) ネットワーク通信速度について

GIGA 第一期時点においては、GIGA 端末を十分に利活用した上で、「ネットワーク速度の遅延が原因となって学びを大きく阻害する」といった事象はありませんでした。しかし、令和6年4月 26 日付け文科省通知「学校のネットワークの改善について(通知)」によって示された「学校規模に応じた当面の帯域の目安」を満たしていない学校が存在する状況です。今後、さらにクラウドサービスの利活用が全国的に普及し、通信不可が増加していくことが予想されるため、通信帯域の確保は無視できない問題となっていきます。

(2) SAMR モデルにおける S(代替)からの脱却

継続的な人材育成の取り組みにより、教職員全体の ICT 利活用能力は底上げされており、多くの教職員が授業に ICT ツールを取り入れている状態です。ノートや教科書が ICT ツールに代替したという現状の段階から、次の段階へ移行するためにも、A(増強)を進め、M(変容)や R(再定義)へステップアップしていくという意識を舞鶴市の教育環境全体で醸成していく必要があります。

第3 1人1台端末の利活用方策

舞鶴市では、GIGA スクール構想第 2 期において、学習用端末を更新し、児童生徒 1 人 1 台の端末環境を引き続き維持します。その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていきます。

また、第 1 期で明らかになった課題を踏まえ、端末の利用や運用の質を向上させるため

の具体的な対策と改善策を検討していきます。

(1) ネットワーク通信速度の調査について

令和7年度以降に、一部の小・中学校にてネットワークアセスメントを実施します。これにより特定した課題や分析結果を踏まえ、第一にネットワーク機器の設定変更等、現行環境にて、ボトルネックの解消を図ります。その結果、ネットワーク速度及び帯域の確保状況に改善が見込めない場合には、令和7年度以降にて、ネットワーク回線の高帯域化や帯域保証契約への変更など、通信契約の見直しを検討します。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

1人1台端末及びクラウドサービスを活用し、GIGAスクール構想以前では実施できなかった学びの姿を追求します。取り組みの一環として、既存の学習ツールに加え、ICTを活用した学びを拡張できる、新たなソリューションの授業利用を検討しています。児童生徒一人一人の学習状況をより綿密にキャッチできるようになる教育向けアプリを用いて、教員や児童生徒間で学習の進捗を把握し、自由進度学習をはじめとした個別最適な指導を可能とする高度な授業形態を模索します。また、当該ソリューションを取り入れることで、舞鶴市で既に利用している学習ツールの機能をさらに引き出すことができます。例えば、クリエイティブな思考を育むために導入しているプレゼンテーション作成ツールでは、一つのデータを複数人で共同編集することが可能となるため、協同的かつ探求的な学習の発展も期待できます。

(3) 多様な背景を持つ児童生徒への学びの保障

1人1台端末環境を最大限に活用し、多様な背景を持つ児童生徒一人一人へのきめ細やかな支援を行い、子どもたちが安心して教育を受けられる環境づくりを推進します。

舞鶴市においては、学習・対人関係・家庭の事情等をはじめとした広範な内容を専用のフォームから相談できる「まいづるこども相談」や、毎朝の健康観察をクラウド化し、データ分析を行う「心の健康観察」を運用しています。これらは、1人1台を用いて、児童生徒から

情報発信ができる仕組みであり、教職員や教育委員会が子どもたちからのサインをいち早くキャッチすることで、いじめや不登校、児童虐待等の未然防止と早期発見・早期対応を図っています。

教育環境になじめない児童生徒や、日本語指導が必要な児童生徒等、多種多様な背景を持つ子どもたちが在籍するなかで、教育現場においては、各々の事情に即した柔軟な支援の実施が求められます。ICT技術を駆使し、オンラインでの場所を選ばない学習支援や、翻訳アプリ・音声教材等の学習ツールを教育現場に取り入れることで学びの幅を広げ、学びの機会の保障や教育の機会均等を確保していきます

(4)ICT を特別視しないマインド形成

教職員の ICT 利活用能力向上を目的とした研修やアドバイザーによる助言は継続的に実施し、授業における ICT 機器やクラウドツールの利活用やリテラシーをさらに根付かせます。それにより、ICT 技術は学校教育にあって当たり前のものであり、文具のうち一つであるというような、ICT を特別視しない段階までのマインド形成を目指します。

そういった観点を持つ教員が指導することで、子どもたちにも ICT 利活用を十分に浸透させ、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力などといった、生涯にわたり学習の基盤となる資質・能力の育成を図ります。